

令和8年度 文学部 日本・中国文学科

学校推薦型選抜 小論文②

○解答例

一

〔解答例〕

筆者弁内侍は吉田祭への使いの任務を終えたあと、大内裏にある女工所へ行きたくなつた。しかし供の者たちにそれを告げると、牛車を遠い女工所まで行かせることが難儀である旨を言う。そこで筆者は、「吉田祭の使いは必ず女工所へ立ち寄るきまりである」と供の者たちに嘘を告げた。すると彼らはその嘘の作法を信じこんで女工所まで筆者を連れて行き、門を開けるのに手間取つた衛士を叱責した。筆者はその振舞いを見て、このようなことが先例になるのだろうかとおかしく思いながら、訪問が叶つた感慨を和歌にした。以上がこの文章の要約である。

筆者は私欲のために架空の先例をでっちあげた上、それを信じこんだ者の振舞いを見て、これが新たな先例になるだろうかと面白く思っている。ここから、伝統や先例を絶対視せず、むしろそれらにとらわれない筆者の考えがうかがえる。

(以下は右の論旨を踏まえた上で各自の意見を適切に述べること)

〔解答例〕

貞観十三年、大乱の後を承けて大平の機運が高まっていた。そこで太宗は、天下を安定できる人材を登用したいと考えたが、そのような賢才を誰も知らなかったため、自薦の可否について侍臣に尋ねた。すると魏徴は以下のように答えた。己を知ることが他者を知る以上に難しいうえ、愚かな人は才能や善行を誇示するものである。このように競争の風を助長させる可能性があるため、自薦させるべきではない。

魏徴は、自薦を認めれば、人々が自画自賛の末に競い合う風潮を助長すると考え、これに反対したのである。

(以下は右の論旨を踏まえた上で各自の意見を適切に述べること)